

怖本

暑い季節がやってきましたね。

今回の展示では、

「涼しく」なれそうな

ホラー小説や怪異の話などの

本をご用意しました。

ぜひ、気になったものを読んでみてください。

(※何かが起きても、すべて自己責任でお願いいたします。)

『教室の怖い噂』

辻村深月ほか(著)/汐文社/JD キヨ

学校には怪談がつきもの。
見慣れた空間の片隅に、
見えない世界への扉が開いているのですー。
怖くて楽しいホラー小説3篇を収録。

『みみそぎ』

三津田信三(著)/KADOKAWA/913.6 ミツ

その怪談を耳にはいけないー。
作家の三津田のもとに届いた1冊の古びたノート。
それは、旧知の編集者の祖父である三間坂萬造が
記したと思われる怪異の記録でした。
三津田は、障りがあるかもしれないと思いつつ
読んでしまい…。

『山の怪異譚』

山の怪と民俗研究会(編)/河出書房新社/388 ヤマ

日本人は古来、山という他界を恐れ、おびえ、また
そこに郷愁を感じてもしました。
死と隣り合う岳人の神秘体験、作家の感性が出遭う
実話怪異譚、民俗の古層の心意がよぶ魔の世界ー。
「山」という異界の恐怖をお楽しみください。

『いるのいないの』

京極夏彦(作)/町田尚子(絵)
/岩崎書店/E1

見なければいけないのと同じ。
でも見ちゃう。
いるかもしれないから。
古い日本家屋の描写がリアルな
怪談絵本です。絵本だからこそ
感じられる恐怖にぞっとします。

『その怪異はまだ読まれていません』

まくるめ(著)/KADOKAWA/913.6 マク

奇妙な体験をした3人に取材を重ね見えてきたのは、語られることなく忘れられた怪異の存在。
語られることで姿を現す怪異たちは、語られるその時をじっと待っています。
誰もが見過ごす日常の裏側にひっそりと潜む違和感を集めていく、
それは、音もなく忍び寄る静かな怪談です。